土川の歴

えだいらい せき

汕平遺跡 一時を超えた天平人の記憶 木簡

ています。 跡合わせて74軒、奈良・平安時代の建物跡9棟などがみつかっ 中世までの遺構や遺物が多数発見されました。円墳を中心とし た31基の古墳のほかに、古墳時代および奈良・平安時代の住居 江平遺跡は、阿武隈川右岸に位置しており、旧石器時代から

も貴重なものとなっています。 ており、年代が明確なものとしては、日本最古と思われるとて また、木簡の出土したすぐ近くからは、竹製の横笛もみつかっ おり、「続日本紀」の内容を証明する貴重な資料となっています。 特に、天平十五(743)年と墨書きされた木簡が出土して

木簡には、聖武天皇が最勝王経の読経を命じたことを受けて



ています。



ベみやのま

県指定史跡

残っています。 を留めていませんが、 横穴式石室の一部が 古墳時代後期の古墳 墳丘はすでに原形

巧な切石によって構成 ています。 者がいたことを物語っ され、当時すでに権力 石室内部は極めて精



墓として建立された石塔婆で、日本の石 た五輪塔は、藤原時代末に領主源基光の に評価の高い貴重な財産として巌峯寺参 造工芸史上、また仏教美術史上でも非常 昭和13年に国の重要文化財に指定され

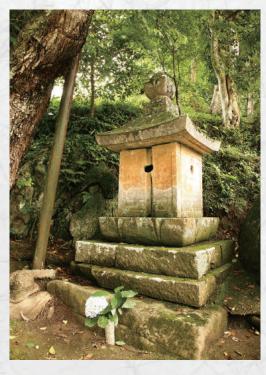
道の覆堂に安置されています。

せきぞうごりんとう

造五輪塔 【国重要文化財指定】

うふくじしゃり

【国史跡指定】



現したものです。 開山和尚の舎利が 年)乙丑・当地の 土往生の思想を表 鎌倉時代の弥勒浄 安置されており、 久二年(1205 ある舎利石塔。元 須釜字久保宿) 12

ゆうおんしょうにんどう

います。 日、仏様になったとのことです。 鐘を鳴らし読経を続けること100 に入り「無病息災、安産」を祈願し、 伝えでは くの信者が参拝に訪れます。 に穴を掘り、干し柿一連を持って、穴 称「山小屋の聖人様」といわれ、 安産の守護神として近郷近在から多 4月の第2日曜日が祭礼日となって 1575年創立の宥音聖人堂は、 「宥音」という名僧が、山頂 通



東福寺境内 南

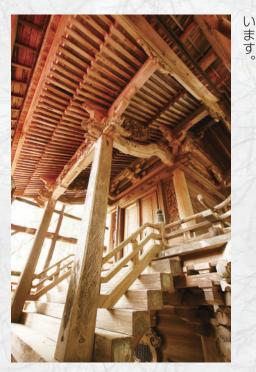
きた由緒ある古社です。 氏の氏神として、 にわたり、県重要文化財として修復工事が行 われた本殿は、 江戸時代初期の建造物で、平成5年~7年

すが、屋根を支える端正で見事な桁の彫刻な 現在は、保存のために瑞垣で囲まれてい



慶長年間の建立ではないかと推察されています。 伺え、「奉棟札正八幡宮武運長久祈慶長四巳亥十月」の棟札写しからみて、 享保などの改造を経て今日に至っていることが現存する6枚の棟札から りを用いた豪壮な江戸初期の造りで、寛文・ に頑丈な栗の木を使い、建築様式は太い木割 どは、見るものを圧巻する美しさです。主材

頼朝の大蛇退治を加護した伝説など、歴史浪漫を感じさせる話が残って また、内陣天井裏に南北朝期の貴重な古文書が秘蔵されていたり、 源



べはちまんじんじゃほ んでん

本殿 【県重要文化財指定】